

2021年7月に実施された噴火湾沿岸の環境調査結果のうち、森（7/7, 7/26）、八雲（7/16）、虻田（7/7, 7/21）、伊達（7/27）の水温・塩分の観測結果をとりまとめました（本情報は函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>）。

【水温・塩分の鉛直分布】

7月上中旬（虻田7/7, 森7/7, 八雲7/16）では、水温・塩分共に鉛直方向の変化は小さいですが、7月下旬（虻田7/21, 森7/26, 伊達7/27）になると鉛直方向の変化が大きくなり、成層化が進んでいます（図1）。また、津軽暖流水（水温6℃以上、塩分33.6以上）は認められません。なお、8/1-2の調査船調査の結果でも、津軽暖流水は湾口部までしか達していないことが確認されています（噴火湾環境情報No.4参照）。

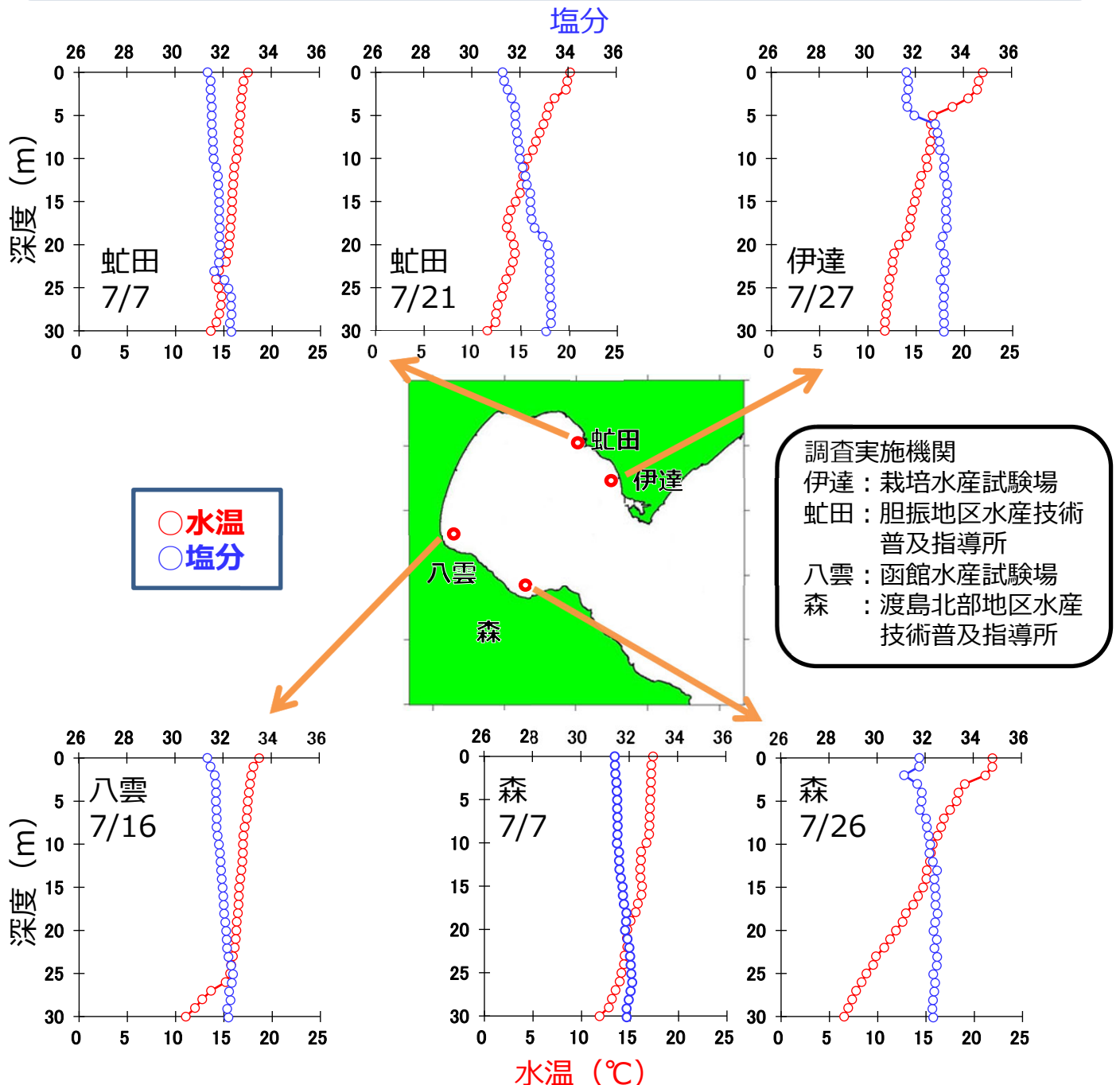


図1 噴火湾沿岸の水温・塩分の鉛直分布

※本調査の一部および情報配信は北海道ほたて漁業振興協会からの委託研究により実施しています。

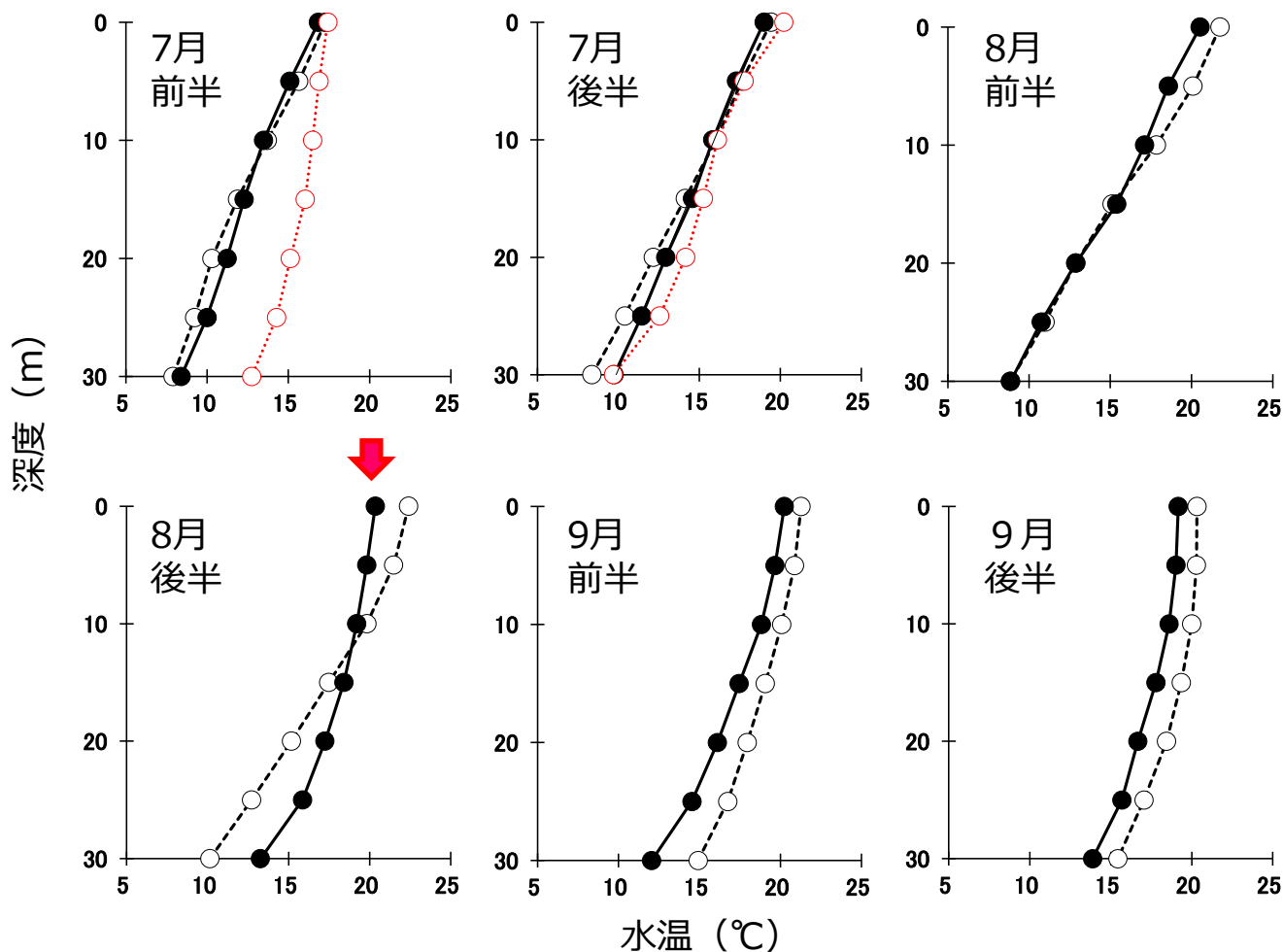
【ホタテガイ養殖関係者向け】

【養殖ホタテガイの「稚貝のでき」と夏季の環境条件】

夏季の水温・塩分の鉛直分布について、「稚貝のできが良かった年」と「稚貝のできが悪かった年」を比較した結果を図2, 3に示します。

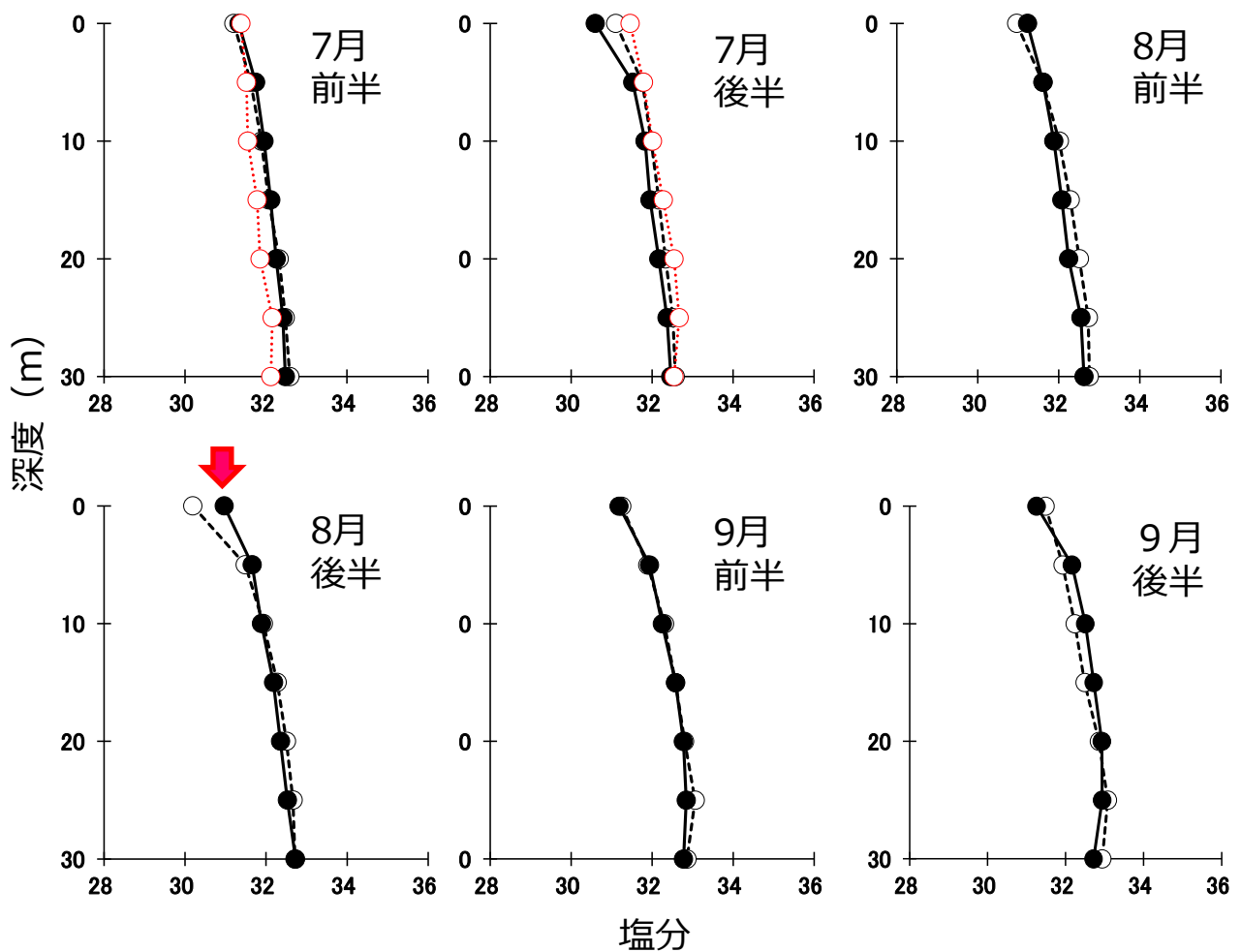
8月後半は水温・塩分共に鉛直分布に差が生じています。稚貝のできが悪かった年は8月後半の水温、塩分ともに深度による差が小さく、成層が弱い条件になっています（赤矢印）。この「成層の弱さ」が、「稚貝のでき」とどのような因果関係にあるのかは、まだよく分かっていません。しかし、少なくとも過去の稚貝のできが悪かった年と似た環境条件が確認された場合は、その後の管理方法や作業方法には例年以上に注意を払うべきだと考えられます。

8月の各地区の水温・塩分の鉛直分布については、9月上旬に噴火湾環境情報でお知らせする予定です。



○稚貝のできが良かった年 ●稚貝のできが悪かった年
○2021 (参考)

図2 噴火湾沿岸の夏季の水温鉛直分布
2000年～2020年，虻田，八雲、森地区の1～2回/月の観測結果を各年各月の前後半の深度別で集計した上で、稚貝のできが良かった年，悪かった年の平均値を示しています。



○稚貝のできが良かった年 ●稚貝のできが悪かった年
○2021 (参考)

図3 噴火湾沿岸の夏季の塩分鉛直分布
2000年～2020年，虻田，八雲，森地区の1～2回/月の観測結果を各年各月の前後半の深度別で集計した上で，稚貝のできが良かった年，悪かった年の平均値を示しています。

○稚貝のできが良かった年

翌3月の稚貝の正常貝率が80%以上の年：2000，2001，2004～2008，2010～2014，2016，2020年の14ヶ年

●稚貝のできが悪かった年

翌3月の稚貝の正常貝率が80%未満の年：2002，2003，2009，2015，2017～2019年の7ヶ年

※翌3月の正常貝率は渡島北部地区水産技術普及指導所の調査結果を用いました。